

## やってみなければ分からない

社会福祉学部社会福祉学科2年 宇野 千晴

活動先：NPO法人 ゆいの会

ゼミ：松下 典子 先生

今回のサービ斯拉ーニングを通して、自分が成長したことと気がついたことについて述べていきたい。私が活動させて頂いた所は、特定非営利活動法人のゆいの会である。NPOバスツアーの際に見学として行き、とてもアットホームで落ち着いた空間で、様々なサービスを展開していることを知り、その時興味を持ったのが、活動先に選ばさせて頂いたきっかけである。サービ斯拉ーニングでは、様々な活動に関わることができた。たすけあいサービスやふれあい活動、介護保険サービスの全ての活動に参加させて頂いた。それぞれの活動と、それから学んだことについて次にまとめていきたいと思う。

まず、たすけあいサービスについてである。ゆいサロンは、地域の高齢者の方々が集い、家庭的な雰囲気皆が楽しく過ごす場である。6日間のサービ斯拉ーニングの初日に、私たち学生にサロンを任せて頂き、企画から実践から全てに取り組むというものであった。最初ということで、どのような利用者さんなのかも分からず不安ばかりでゲームの準備をしていた。私たちが企画したゲームは、手作りの文字パズルと模造紙を使用して「海」をテーマに皆で1つの作品を作るものである。楽しくなかったらどうしようという大きな不安を背負いながらサロンに臨んだが、利用者さんがとても楽しそうに過ごされていて安心した。サロン中は、利用者さんだけでなく職員さんも混じり、たくさんの素敵な笑顔を見ることができ、私たちとしても、成功を感じ、サロンが上手く進んだと実感した。サロン中もサロン後もたくさんの方から「私たちのためにありがとう。」や「準備大変だったでしょ。本当に嬉しいよ。」などのお言葉を頂いた。この活動を通して利用者さんがより元気になってくれれば光栄だと思っていたのだが、逆にたくさんの元気を頂いた。まさかここまで喜んでくれて、お礼を言われるとは思ってもしなかったもので、実際にやってみなければ何も分からないということを学んだ。やってみて失敗することもあると思うが、それを重ねて良いものを創り上げることが大切なのだと感じた。これは、サロンのみではなくゆいの会の運営全体にも言えることだと気付いた。



同じたすけあいサービスの中には、配食サービスも存在する。「ゆい膳」と呼ばれる厨房で、職員さんによって厳選された食材を使い、栄養バランスやカロリー計算、バランスをしっかりと考えたお弁当を作り、利用者さんの家へ配達される。調理のお手伝いをさせて頂いたが、1人1人のお弁当が微妙に異なっていることに気が付いた。固いご飯を食べることができない方のためにお粥を用意し、お肉を食べることができない方のためにはお魚に

変更されていた。一緒に届けに行ったとき、ある利用者さんから「自分の体に合ったものを作ってくれるからとても嬉しい。安心して食べることができる。いつもありがとうね。」というお言葉を頂いた。些細な配慮や思いやりが利用者さんにとっては大きな安心に繋がるということを学ぶことができた。ここでは、食を通してであったが、あらゆる場面において利用者さんを思う気持ちが利用者さんの安心した生活に繋がるのだと感じた。

次に、ふれあい活動についてである。ここでは、さをり織りと絵手紙に関わらせて頂いた。その中でも特に学びを深めることができた「さをり織り」について述べていきたい。自分の好きな色、好きな糸、好きな柄に織ることができ、世界に1つだけの作品を作ることができる。利用している方は、高齢者や障害者など様々である。1人1人が真剣に作業できるように、1対1の形で職員さんがサポートについており、利用者さんも楽しそうに取り組む姿を見ることができた。作品を作り上げた時の皆さんの表情はとても嬉しそうで、私も嬉しくなった。ここで学んだことは、何かをやり遂げたときの達成感はとても大きく、共通点のない人々がお互いの



作品を通して触れ合うことができると感じた。

最後に、障害者支援サービスの移動支援について述べたい。これは、社会生活上不可欠な外出や、余暇活動など社会参加のための外出の援助である。私も同行させて頂いたのだが、買い物の時間や歩く速さなど、全て1人1人に合わせていると感じた。よって、利用者の方は皆自分のペースで



行動することができていると感じた。歩いている途中で、ある1人の利用者さんがいきなり発作を起こしたが、それに対しても落ち着いて対応しており、決して職員さんが焦ってはいけないのだと学んだ。

しかし、活動全体を通して見えた課題もある。それはせっかく様々なサービスを展開しているにも関わらず、それが地域の方々にあまり知られていないということである。あまり目立たない建物の外観や、サービス内容を公開する機会がないことなどの問題によるものだと考えた。そこで、私たちはホームページの一部を作成したり、大学祭でのさをり織りの展示会などを提案した。サービスラーニングの活動は終了したものの、今後もゆいの会の方々と連絡を取り、ゆいの会がますます発展するように努めたいと考えている。